

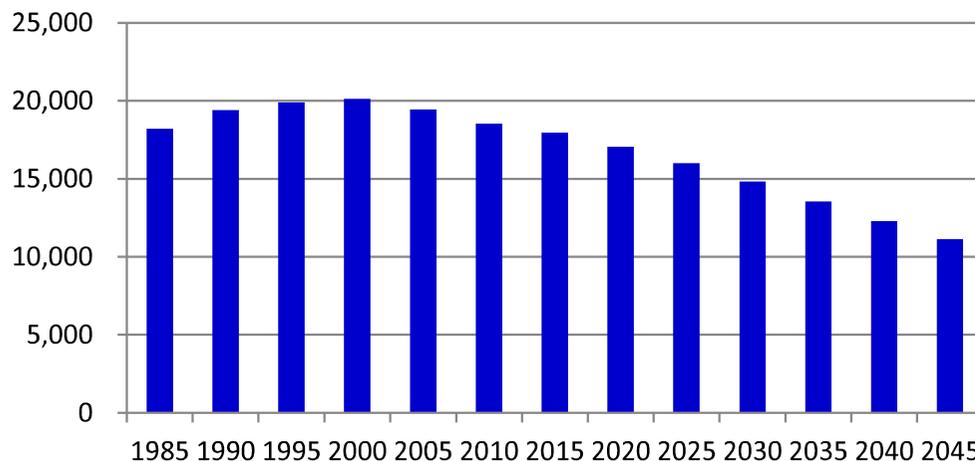
地域の活動や
コミュニティの活性化に向けて
—住民による自治、地域づくり活動—

1. 河合町のコミュニティ

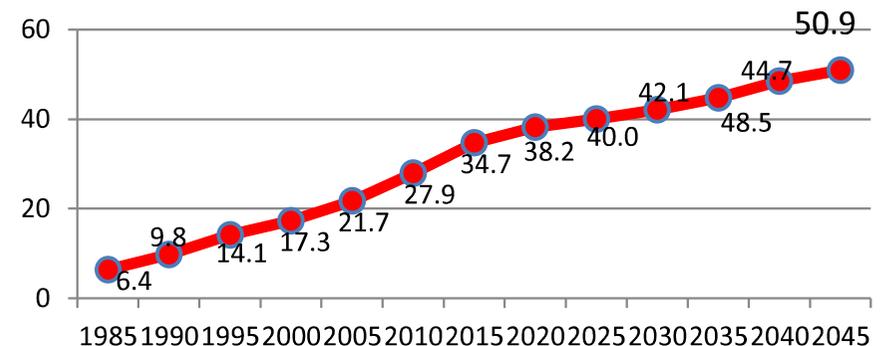
(1) 人口からみた河合町の過去・現在・将来

- 進む少子高齢化、人口減少と地区の維持が困難に。
- 地方分権の流れ、自治体の自立と自律への要請。
- 厳しい自治体財政と公共サービスのニーズ増大。
- 自治体内地域格差の拡大と地区再活性化の要請。

河合町の人口の推移・予測

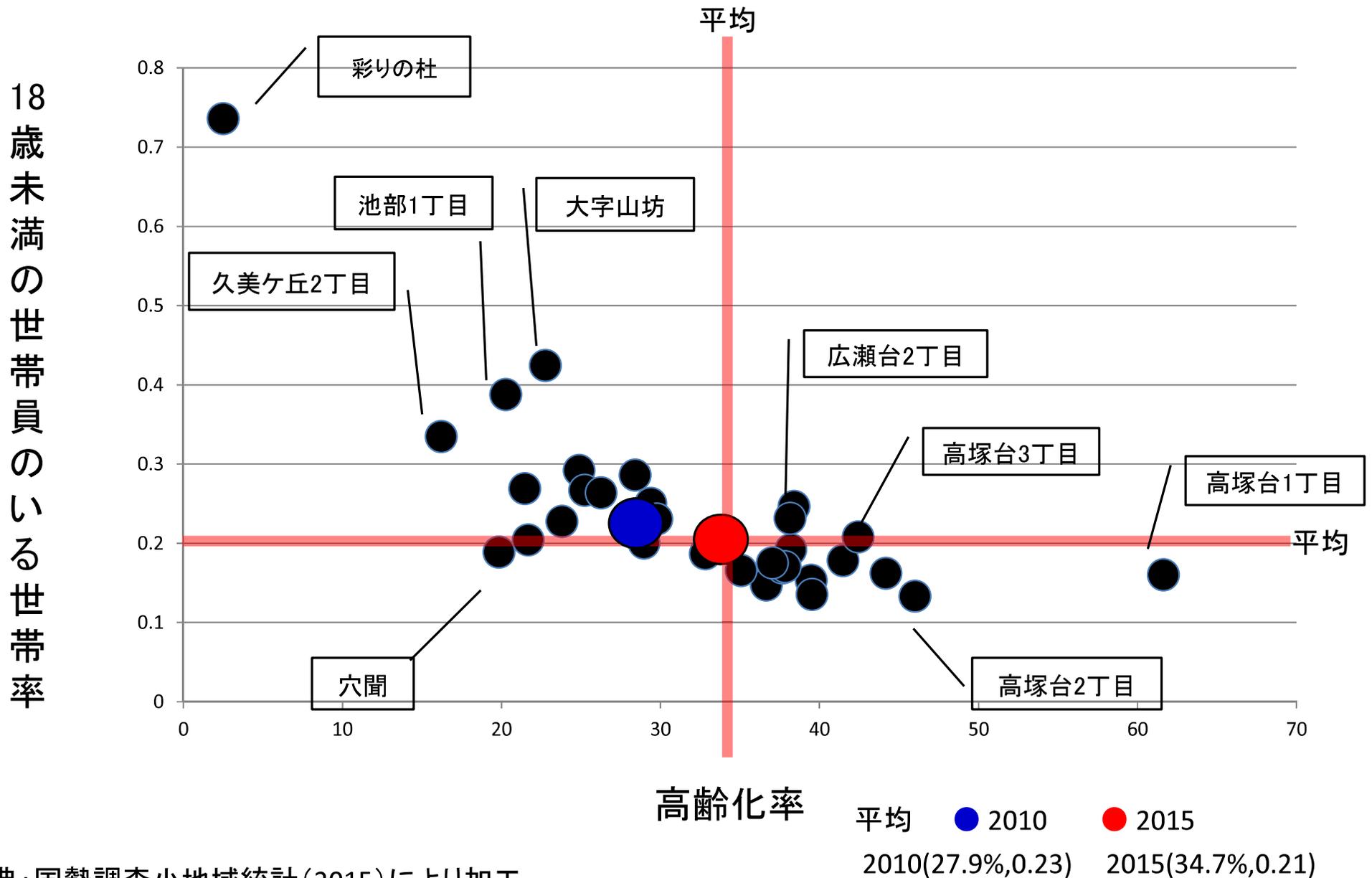


河合町の高齢化率の推移・予測



(2) 地区別の少子高齢化状況

－高齢化率と18歳未満の世帯員のいる世帯率(2015)－



出典：国勢調査小地域統計(2015)により加工

地区別の高齢化率状況図（前頁）の説明

○高齢化率（横）と18歳未満の世帯員のいる世帯率（縦）の散布図です。（2015年）

18歳未満の子どもが多く、高齢者が少ない	18歳未満の子どもが多く、しかも高齢者が多い
18歳未満の子どもが少なく、高齢者が少ない	18歳未満の子どもが少なく、高齢者が多い

○右下の象限にある大字（町会）は、全町平均よりも高齢化率が高く今後ますます高齢者に優しいまちづくりが行政にとっても住民にとっても必要になってくること。

○左上の象限（彩の杜等）は若い世代の意見を取り入れたまちづくりをしていべきこと。

(3) 人口データからわかること

- 河合町の総人口は今後減少傾向にあること。
(2015年から30年で、約38%減る。)
- 高齢化率は一貫して高くなること。
(2025年には40%、2045年には50%を超える。)
- 子どもの実数は減少傾向にあること。
- 地区別には、極めて大きなバラツキがあること。
 - 高齢化率、18歳未満の世帯員のいる世帯率(図)
 - 人口(星和1丁目1,674人～大字池部63人)
- 政策の方向は、地区毎に考える必要があること。

(4) 河合町の自治会の概況

- 河合町には、23の自治会がある(うち2つは総代自治会長会に非加入)。
- 加入率はほぼ70%を超えており、5地区が100%である。
- 総代自治会長会加入団体は、自治振興費交付金を受けている(約30万円~13万円)。また、全部の自治会で、**県広報紙配布交付金**を受けている(約7万円~6千円)。
- 活動としては、防犯防災活動、町イベントへの参加がほとんどの自治会で、こども神輿祭り、大字夏・秋祭りが7~9の自治会で行われている。
- 自治会ニュースは、年1回発行から毎月発行まで、9自治会で実施されている。
- 自主防災組織は、平成25年以降9自治会で立ち上がっている。

(5) 河合町の自治会活動の課題

○自治会への加入者の減少

⇒ 自治会加入のメリットがない、自治会活動に参加するのがいやだ

○役員のみなり手が不足

⇒ 高齢化が進み、役員のみなり手が不足・固定化している

○ゴミ問題

⇒ 地区外のゴミが不法投棄される

○行事活動等の参加者が少ない。

こんな課題も！

- 地域課題(問題)への対応力が不足(課題発見、取り組みの意欲・能力)。
 - * さまざまな地域課題⇒孤独死、無縁社会、超高齢社会の進展、ゴミ、災害(集中豪雨・洪水、大事故)
- 情報の公開・発信・収集・共有力の不足。
- 若い若い人の声、女性の声が聞けていない。
- ・多様な地域主体との連携・ネットワークができていない。

(6-1) 自治会以外の河合町民の活動

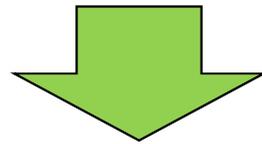
- 河合町の各地域では、週に1回、住民の健康維持・仲間づくりを目的に集会所などで『しゃきっと教室』が、地域包括支援センターの支援を受けて500回以上開催されている。
- また、住民相互の助け合いや交流の輪を広げ、共に支え合う地域福祉の推進を図り、自宅から比較的近い距離で気軽に集まれる地域の居場所としてふれあいいいきいきサロンが13箇所、令和2年度は63回（年数回～毎週）開催されている。

(6-2) 河合町の文化団体、スポーツ団体、NPO活動等

- 河合町には、パソコン、陶芸、大正琴、語学、音楽等の62の文化関連団体が自主的に活動している。
- スポーツ団体は、バドミントン、硬軟野球、卓球、サッカー、テニス等競技団体(連盟)やクラブ等15ある。連盟加盟団体を合わせれば数が多い。
- 河合町では、福祉、人権、スポーツ、生活支援等の分野のNPO法人が7団体活動している。

(7) 変化の中で地域はどう考えるべきか

- 人口が減るとともに高齢化が進み、人口構成も変るという状況の中でこれまでの社会のあり方や暮らし方なども大きく変わらざるを得ない。
- 行政はもちろん、地域も変わっていく必要がある。
- 地域運営にも新たな仕組みが求められる。
- 最終的には、地域特性に応じて、住民がどのようにするかを決めるべき。



地域の**チカラ**が問われる！

2. コミュニティの活性化

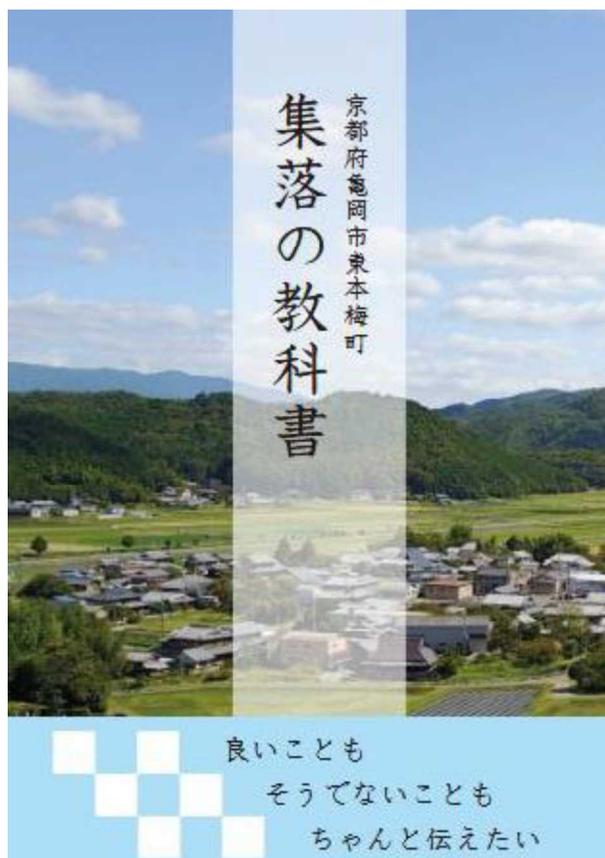
1. 自治会活動(組織)の活性化へ向けて

- ① 実態を見つめる
 - ② 住民の声を聞く 老若男女 中学生以上の個人としての意見を(例:村上市神林地区アンケート)
 - ③ 町内会の仕事の棚卸し 行事・会議・組織のリストラ(人手も時間も限界に来ている)
 - ④ 誰もが納得するルールづくり(情報・お金の**透明性**、意思決定の**民主性**、**開放性**(参加性))
 - ⑤ 地域課題に取り組んでいるか(超高齢化、孤独死、災害、学校、子ども、自然・景観保全、交流……)＝「自治」の要
 - ⑥ 組み合わせとネットワーク
 - ⑦ 学習
- ⇒ 自治会は存在することに意義がある！

2. 実践的方向

①地域のことを知る、伝える ⇒ 集落の教科書

ずっと澄んでいる人にとっての便利帳、新しく入って来た人にとっての地域の教科書、みんなにとっての自分たちの地域を説明するハンドブック。



1 まず、自分の町の町会長を知りましょう。
近所の人に聞か、高階地区コミュニティセンター (P.15 参照) までお訪ね下さい。

2 町会長にあいさつしましょう。



3 続いて、町会長または班長と一緒に班内をまわります。



移住してくると、まず始めにご近所さん特に、田舎においては地域の方へのあいさ高階地区では、決まったルールはありませんまた、町会長と隣近所にはお土産を準備

まずは、あいさつ回りから

強いルール



ゆるいルール



消えつつあるルール



慣例や風習



ルールには濃さがある

集落のルールと一口で言っても、守ったほうがよいルールからゆるいルールまで、色の濃さに違いがあります。ルールをどの程度守った方がよいのか、その基準を示しますので、参考にしてください。



② 住民の集まる場づくり ひがしまち街角広場(大阪府 千里ニュータウン)



兵庫県朝来市与布土地区 座談会(ワークショップ)

地域自治協議会設立に向けて — まちづくりの方向を考える



③ 情報伝達のツール

2015(平成27)年9月1日(火)

(発行所) 東町校区自治会連絡協議会

新千歳東町
ホームページ
http://e-senri.jp

新千歳東町
ひがしおか

自治会連合会・公民館分館
校区福祉・防犯東町
会同健康委員会発行
編集責任者
編集 〇〇〇

2015-08-18 50周年記念行事「東丘小学校 ARISS スクールコ」 ごあいさつ

東丘小学校長の定年です。本日は、創立50周年記念行事の発起にあたり、ご来賓並びに児童と保護者や地域の皆様、大勢のご参加を頂き有難うございます。

さて、ARISSスクールコンタクトとは、NPOの教育プログラムの一環として行われています。今回はアマチュア無線を通じて(図)国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士の油井亀美也さん(7月23日に宇宙へ飛び立った)と宇宙



交流を行い、学習・科学に興味を持って頂くと言うものです。私は4月に兼任し、10日前後より「今年創立50周年記念行事でスクールコンタクト」が予定されている旨を引継ぎました。こんな素晴らしい機会を得られた東丘の子ども達は一生の思い出になり、将来の夢に向けて努力し、国際的な視野を持って、大きく羽ばたいてほしいと願っています。

この企画が成り立ちキッカケは、一人の児童がインターネットで見つけて学校に要望してきたことから実現されました。その児童とは6年1組の大塚(おおたけ)賢也(けんや)さんです。彼に大きな拍手を送りたいです。大塚さんありがとうございます。さあ皆さんと一緒に準備を体験し、宇宙の体験をしましょう。

ISSとの交流はアマチュア
今年度の無線交信の指導・啓蒙には、無線師の野中達也さん(一般無線五人日本無線連盟(NAR)大阪支会員)の支援でISSの油井さんから子ども達へ「宇宙から見る星は大変キレイですね」「地球から400km上空を90分で飛んでくにはまだ帰ってないが、帰ると思えば帰国に入りテープで帰って来るよ」

創立50周年に合わせて20年前(1995:平成7年)に埋めたタイムカプセルを開

平成7年は学校創立30周年にあたり、その記念行事として、20年後の50周年に、全校生徒1年〜6年迄300人が、未来の自分に向けて作文や思い出の作品を始めたタイムカプセルを埋めた。

開封のイベントは、正門を入った石手体育館に立つスチール製の大きな風船セーラー。その巻と見元に金貨の品が埋められていた、カプセル開封後、懐かしい歌を全開り聴いて涙ながら50年の再会に歓声をあげていた。

★開封したタイムカプセルの埋め込みに参加した児童の様子です。

東丘小学校創立30周年記念タイムカプセル開封実行委員会代読
担当 栗原 080-1437-3893
メール: fu-yuki@skkook.jp

福祉の広場

健康教室

7月7日、「ふれあいサロン」に出席の皆様と飾りをした後、健康教室を開催しました。健くり推進員会と共催で「手洗をかねずに美味食べよう」をテーマに管理栄養士細川富美子先生にご指導いただきました。その場で調理したものも試食もしました。用意したレシピ資料が足りなくなり追加印刷するほどの盛況ぶりでした。

◆小松菜とツナのポン酢炒め
・小松菜1/2袋
・ツナ缶1/2缶
・ポン酢1大さじ1杯
①小松菜は4cmくらいの長さで切る
②フライパンにツナ缶の油を熱し、小松菜の葉の部分から炒める
③小松菜の葉の部分とツナを炒めポン酢を添えかける

高齢部会

7月21日、千里包括支援センターの指導のもと、東町にお住いの「高齢者がいる世帯の支援について考える」をテーマに民生・児童委員、福祉委員、地域福祉関係団体(病院、介護施設、ケアマネジャー等)57名が4つの組に分かれて意見交換をしました。情報の共有をはじめ、地域の高齢者世帯をみまもってきたいと思えます。

東町校区自治会連絡協議会、公民館分館、校区福祉委員会、防犯協議会の4者が連携して、2ヶ月に一度発行。
校区内全世帯(4,700)に配布。

さくらんぼ

8月11日、ミニ子育てサロンさくらんぼにて、赤ちゃんの足跡をとるイベントをしました。スポンジをポンポンと足の裏にあてると、赤ちゃんは気持ちよさそうにニコニコ。お母さん方には良い思い出になったと好評でした。さくらんぼは、毎月第二火曜の10時から12時まで東町会館の和室で開催されています。9月は赤ちゃんのおもちやを作ります。ふるってご参加ください。

敬老の集い 9月19日(土)12時45分～
東丘小学校体育館にて開催されます

豊中市より委託を受け各校区ごとにそれぞれの手作り「敬老の集い」を開催しています。65歳以上の方(288人)に案内状が届けられ、案内状と引き換えに記念品をお渡ししております。東町では米寿の方々のご紹介をして会場のお茶とともに長寿をお祝いさせていただいております。幸いですのご来場ご希望の方、手助けが必要な方は予め福祉委員にご連絡ください。

地域の皆様誘い合ってお越しをお待ちしております。お車での来場はご遠慮ください。当日、歩行者は西門から入場をお願いします。当日は駐車場はございません。

プログラム
・第八中学校吹奏楽部
・東丘小学校1年生斉唱
・東丘小学校ダンスクラブ
・東丘小学校50周年記念ピアノ
・太極拳・東会のエイサー
・東丘小学校先生・八鼓の和太鼓

住んでみたい、住んで良かった、これからも住み続けたい

3. 自治会の再生……へ向けて — 3つのアクション

1) ラウンドテーブル(井戸端会議)をやってみる

- 誰もが気軽に、自由に参加できる意見・情報交換の場
- 若者、女性の参加をはかる(託児とか、SNSで広報とか)

2) 行事を整理し、楽しいものにする

- 地域で最も必要なものだけを残す(新たに創る)
- できないことはやめる。しかしできることはしっかりやる
- 楽しさを演出する(楽しさを企画できる人に任す)

3) 変わることをいとわない

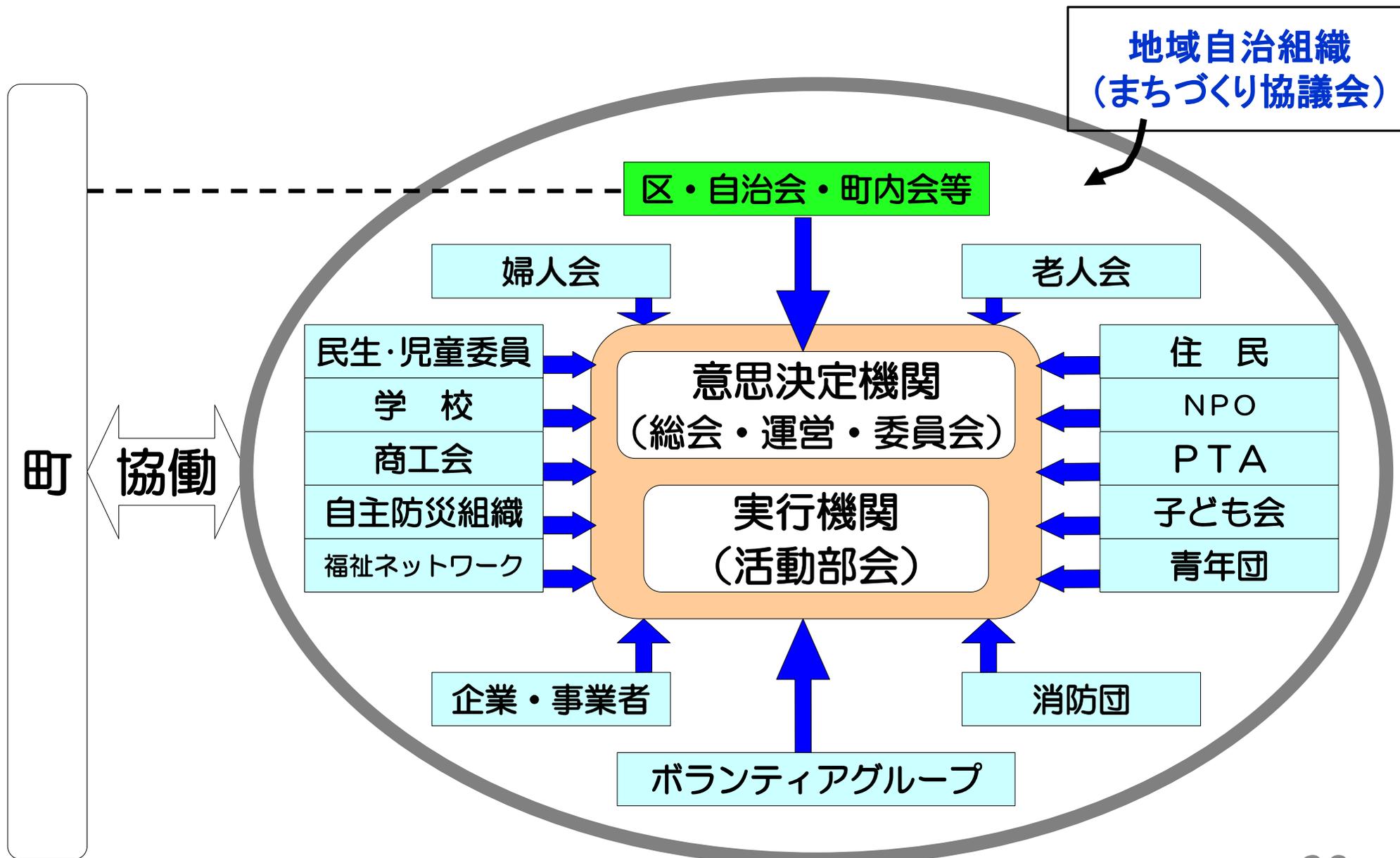
- 従来のやり方に固執しない
- 若者に任せる
- 明るくやる(イベント、情報伝達、意思決定)

3. 新しい地域自治のしくみ

(1) 新しい地域自治のしくみが求められるわけ

- 進む少子高齢化、人口減少と地区の維持が困難に。
- 地方分権の流れ、自治体の自立と自律への要請。
- 厳しい自治体財政と公共サービスのニーズ増大。
- 自治体内地域格差の拡大と地区再活性化の要請。

(3) 新しい地域自治の仕組み（組織）のイメージ



要は

- ① 地域の**総合力**を発揮するために、地域団体や住民(個人)が連携する仕組み
- ② 全住民が、世帯単位ではなく**個人**としてメンバーになる、**公共的**団体
- ③ **透明性、民主性、参加性**が鍵

(4) 地域自治協議会の実践例 (朝来市)

平成19年、20年に市内11地域で設立。

地域協働アクションプラン策定(平成25年度):「段階をおった地域への権限移譲や公共サービス(事業)の委託を促進する。」とした。

○自治協の活動例

買い物支援、自主運行バス、地域学童保育、農家レストラン経営、地域での生涯学習講座、都市との交流事業、指定管理受託……

○自治協設立後の地域の変化

自治協は地域づくりの基盤という意識ができた。

→住民だれでも参加できる体制(1人1票制)、子どもや女性Jの声を反映。

自治協が地域の拠り所

→公共を担う組織に。

自治協が楽しい場に

→自己実現の場、技能を地域に還元できる。企画、実行を担い、楽しめる。

「小さな役場」という発想が生まれてきた

→昔の役場、農協、社協、郵便局等々の複合体。小さな政府。

(5) 地域自治協議会への行政の支援

● 人的支援

◇ 地域支援職員の配置（吉野町、名張市、朝来市等）

● 財政的支援

◇ 事務局経費支援（朝来市、西脇市）

◇ 地域への包括交付金（名張市、朝来市、西脇市等）

地域それぞれのやり方とすることが大切です。

● 制度的支援

◇ 自治基本条例・まちづくり基本条例において、「地域自治協議会」及び「基礎的コミュニティ」の位置づけを明記（広陵町、吉野町、伊賀市、名張市、朝来市、丹波市等多数）

● 情報提供・アドバイス

◇ 先行事例の紹介、組織マネジメント相談等（各地）

◇ まちづくりセンターなど、地域自治組織を支援する中間支援組織を設立（伊賀市）

第2回 河合町自治(まちづくり)基本条例検討審議会2021.10

ご静聴ありがとうございました。

